関水由美子、ステップス初個展である。関水は武蔵野美術大学日本画科を 1979 年に卒業、2009 年からグループ展に参加、2014 年からコンクールなどに登場、2016 年に小杉画廊で「初個展」。今回は二度目の個展でもある。ステップスギャラリーでは 2016 年のアートカクテルから参加。関水はベテランの新人らしく、新しい試みに次から次へと挑戦する。基本的に墨とインクを用いて和紙に描く技法と素材ではあるのだが、色をつけたり支持体の形を変えたりと、試行錯誤を繰り返す。単に線を描くだけではなく、暈かしや垂らし込みに見える方法論にも果敢に挑む。重要なのは描かれる世界観であり、関水の絵画には人間の情感や営み、役割や使命といった、我々がいま、ここに生きている意義や意味を抽象的な画面から問い掛けてくるのである。関水は技巧に溺れることは決してなく、書や水墨画のような形式に陥ることもなく、単なるモノクロームではなく多様な色彩が浮かび上がってくる、重層的な作品を描き続けている。関水の作品のサイズが問題ではない。我々の視覚と感覚の許容量が、時代と世界に要望されているのだ。

Steps Gallery